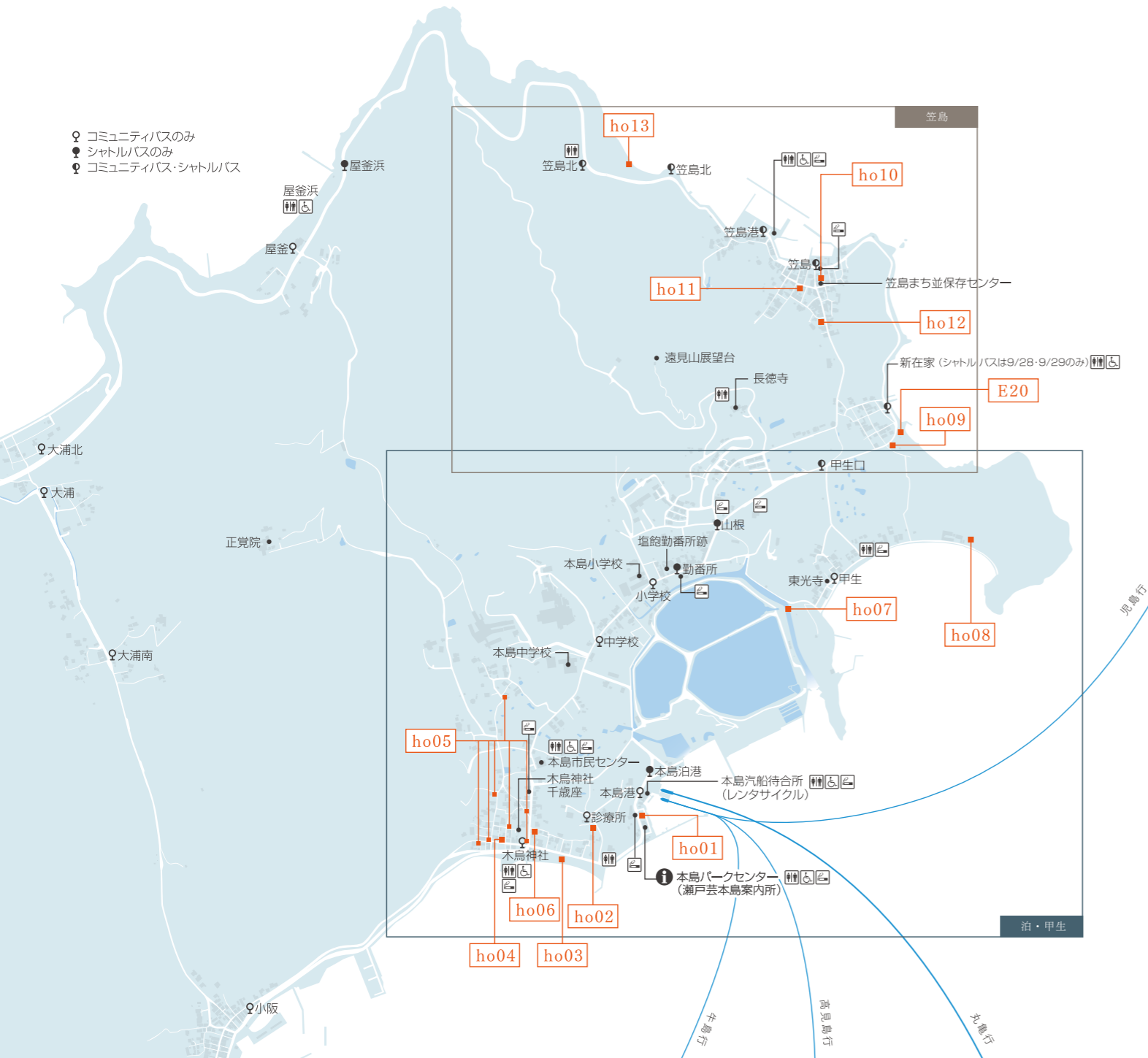


本島

HONJIMA

SETOUCHI TRIENNALE 2019



▲瀬戸内国際芸術祭2019
本島特設ホームページ



▲瀬戸内国際芸術祭2019
公式ホームページ



▲瀬戸内国際芸術祭2019
公式アプリ 無料ダウンロード

丸亀ー牛島ー本島

本島汽船 Tel. 0877-22-2782

丸亀	牛島	本島
6:10	—	6:45
7:40	—	8:15
臨 9:00	—	9:35
10:40	—	11:15
★12:10	12:25	12:30
臨 13:20	—	13:55
15:30	—	16:05
★16:30	—	16:50
★18:15	—	18:35
★20:00	—	20:20

本島	牛島	丸亀
6:50	—	7:20
臨 8:20	—	8:50
★8:30	8:36	8:50
9:40	—	10:10
12:35	—	13:05
★14:15	14:21	14:35
臨 14:50	—	15:20
17:10	—	17:40
★17:50	—	18:10
★19:30	—	19:50

本島	牛島	本島
★16:52	16:58	17:03

「★」…は旅客船の為、車両(二輪車・バス・乗用車・トラック)は乗船できません。
「臨」…は臨時便の為、車両不可 ※自転車・原動機付き自転車は可。

児島ー本島

六口丸海運 Tel. 086-474-6199

児島	本島	本島	児島
6:25	6:55	7:00	7:30
9:30	10:00	10:05	10:35
11:10	11:40	11:45	12:15
13:30	14:00	14:05	14:35
16:00	16:30	16:45	17:15
18:30	19:00	19:10	19:40

※全ての便で自転車・単車・手押し車など車両は積むことができません。

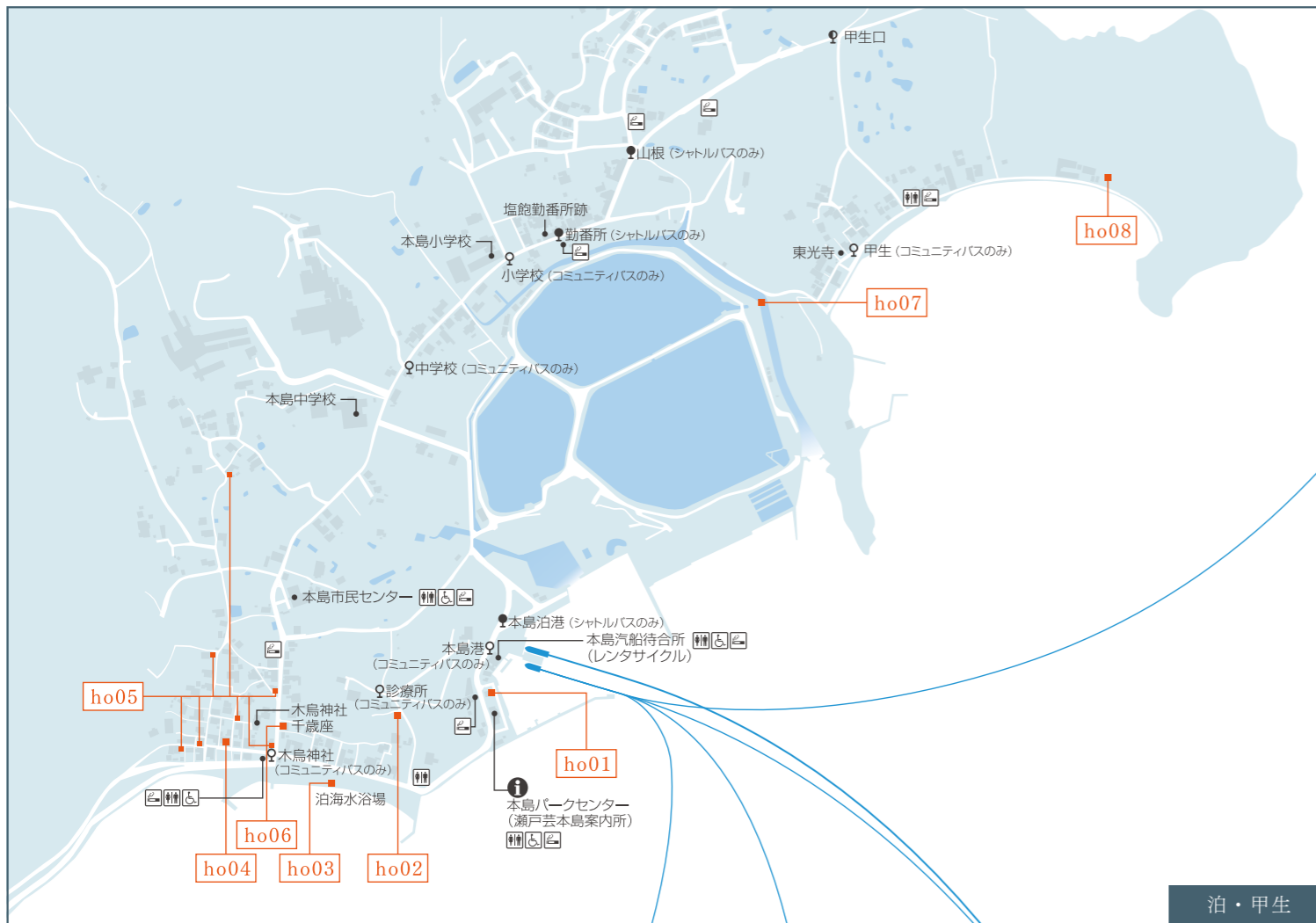
本島ー高見島ー栗島

にじ観光 Tel. 0877-24-6300

本島	高見島	栗島	栗島	高見島	本島
10:00	10:35	10:55	10:00	10:25	10:55
11:15	11:50	12:10	11:15	11:40	12:10
12:25	13:00	13:20	12:25	12:50	13:20
13:30	14:05	14:25	13:30	13:55	14:25
14:35	15:10	15:30	14:35	15:00	15:30
15:40	16:15	16:35	15:40	16:05	16:35

※全ての便で自転車・単車・手押し車など車両は積むことができません。





ho01

泊

Vertrek「出航」

塩飽水軍の根拠地で優れた造船操船技術を持つ本島出身者が、太平洋を初めて往復した威臨丸乗組員として活躍し、これを顕彰した。

石井章 [Akira Ishii]



ho02

泊

シーボルトガーデン

シーボルトは瀬戸内の植物と共に瀬戸内の魅力もヨーロッパに伝えた。環境彫刻による庭には自然に育った植物が繁茂する。

川口豊・内藤香織 [Yutaka Kawaguchi・Kaori Naito]



ho03

泊・海岸

そらあみく島巡り

塩飽諸島の各島々で住民により編み上げられた漁網を春会期に沙弥島で展示されたものつなげ、全長120メートルとなった網を波打ち際に設置する。島と島、人と人をつなぐ網を通して土地の風景を見つめなおす作品。

五十嵐靖晃 [Yasuaki Igarashi]



ho04

泊

海境

もと網元の家である築100年を越える古民家を舞台にスモークやレーザー光を使って本島周辺の複雑な潮流を再現し、危険と隣り合わせた漁師の暮らしや文化を思い起こさせる体験型インスタレーション。

中村厚子 [Atsuko Nakamura]



ho05

泊

漆喰・鍍絵かんぱんプロジェクト

本島の年中行事や名所、また、言い伝えや昔話を元に制作した。島が賑わっていたころの様子を図案化し、店や民家の軒先で島の風情を味わえる。

村尾かずこ [Kazuko Murao]



ho06

泊

威臨の家

威臨丸水夫の生家を舞台に屋外に壁画、室内床に水鏡を設置した。船上の平等を意味する「威臨」は価値観や文化等の違いを認め合う事を表現している。

眞壁陸二 [Rikuji Makabe]



ho07

甲生

恋の道

見る角度によって色や絵柄の変化する素材を使って作られた船を水に浮かせ、潮の干満や流れにあわせて揺れる様子で先の分からない恋の行方を表現する。

ラックス・メディア・コレクティブ [Raqs Media Collective]



ho08

甲生

産屋から、殯屋から

繰り返される“生と死”をみつめ、過去から未来へつながる作品。島で感じた空気や大地から湧き出すエネルギーを作品に置き換え表現した。

古郡弘 [Hiroshi Furugori]



ho09

笠島

善根湯 × 版築プロジェクト

かつて塩飽諸島には優秀な船大工が多くいた。江戸中期以降は、宮大工や家大工へと姿を変えて特徴的な建物を多く残している。その歴史が忘れられないよう建設された。

齊藤正 × 続・塩飽大工衆 [Tadashi Saito × Shiwaku Carpenters]



ho10

笠島

Moony Tunes

大坂城石垣にも使われた本島の石を用いて、潮の溝引きを作る“月”を表現した空間で宇宙との関りを表す。

ツェ・スーメイ [Su-Mei Tse]



ho11

笠島

笠島 - 黒と赤の家

塩飽水軍の孫で最後の塩飽大工の家であった空き家で、家主が残したものやタイと日本の伝統工芸品でインスタレーション作品を展開する。作品と共に、失われた工芸品、文化や人々の交流の場を提供する。

ピナリー・サンピタック [Pinaree Sanpitak]



ho12

笠島

軌道(革命グラウィタス) / パラベッツ(屏風) / 引力の反映

塩飽大工の建てた伝統的な建物の中で、実像と虚像が交差する独自の世界を表現する。本島の石を使って惑星の軌道や宇宙をイメージさせる一方で、鑑賞者が作品の一部になりえる仕組みで現実を強調する。

アリシア・クヴァーデ [Alicja Kwade]



ho13

笠島

水の下空

表面に砂が塗られていることにより、砂で作られたように見える船はかつて瀬戸内を行き交った和船に似て、海辺の風でゆったりと揺れる。

アレクサンドル・ポノマリョフ [Alexander Ponomarev]



E20

笠島

前売1,000円
当日1,500円
【パスポート提示で1,300円】
※小中高生800円

ラプラタ川—旅芝居—

令和元年9月28日(土)、29日(日)
14:30 ~ 16:10 (14:00開場)
定員100名

ベビー・ピー [Baby Pee]